

## スーパーグローバルハイスクール(SGH)活動報告

★平成 27 年 3 月 9 日(月) 京都大学特別講義

「多様な考え ～グローバルな場でのコミュニケーションのために～」

京都大学 東南アジア研究所長 河野泰之先生

京都大学 東南アジア研究所 Mario Ivan Lopez 先生

京都大学 東南アジア研究所 今村 真央先生

京都大学 白眉センター Nathan Badenoch 先生

京都大学の 4 名の先生方に、特別講義を実施していただきました。「グローバルな場では、どのようなコミュニケーション能力が必要なのか」をテーマに、講義の80%ぐらいが英語で行われました。

まずはじめに、先生方が英語でお互いの紹介をしてくださいました。それぞれの先生がユニークな経歴をお持ちでしたが、グローバルに人生を enjoy するのが大切で、その秘訣は

- ・Enjoy talking with local people (地元の人と話すのを楽しむ)
- ・Enjoy studying new culture (新しい文化を学ぶのを楽しむ)
- ・Enjoy myself being changed (自分が変わるのを楽しむ)

というお話がありました。「英語が話せるからよいコミュニケーションをとれるとは限らない」というお話も印象的でした。世界各国で学びを続けてこられた先生方のお話は、高校生たちにとっても刺激になったようです。



次に、4班に分かれて講義とグループディスカッションを行いました。



自然班(河野先生)は、東南アジアを例に、「東南アジアの人々は、生活のために木を伐採している。森林破壊を食い止めようと伐採を制限すると、経済的に貧しい人々や社会的弱者の人々の生活を苦しめることになる。しかし、森林破壊を見過ごしていると、世界の気候が不安定になるなどの環境問題を引き起こす可能性がある。このジレンマをどう克服するか。」をテーマに討論をおこないました。

国際移民班(Lopez 先生)のテーマは「日本の移民受け入れのドアはどれぐらい空けておくべきか？あるいは閉ざすべきか？」。宗教班(今村先生)のテーマは、「宗教の風刺画は出版されるべきか？」。言語班(Badenoch 先生)のテーマは、「あなたのひ孫は何語を話していると思うか？」でした。いずれも、これから若者が世界情勢を見据えながら考えていかなければならない問題です。生徒達は「問題を多面的に考えながらも自分の意志を決定しなければならない」という難しさを改めて感じたことと思います。



最後に、各班が討論内容を英語で発表しました。まだまだ1年生、100%英語とはいかず日本語が混じってしまう場面もありましたが、自分たちの考えをうまく伝えていました。先生方の突然の質問にもしっかり答え、「予想以上」という評価をいただきました。このような貴重な機会を与えていただいた京都大学の先生方に、改めてお礼申し上げます。

